



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月5日

上場会社名 旭松食品株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2911 URL <http://www.asahimatsu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木下 博隆
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 足立 恵 (TEL) 06-6306-4121
 四半期報告書提出予定日 2022年8月5日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,856	△4.4	△34	—	△20	—	△39	—
2022年3月期第1四半期	1,942	—	36	△58.5	47	△54.4	25	△57.8

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 16百万円(△47.1%) 2022年3月期第1四半期 30百万円(△58.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△21.71	—
2022年3月期第1四半期	13.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	9,590	7,504	77.6
2022年3月期	9,579	7,551	78.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 7,445百万円 2022年3月期 7,496百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,200	2.1	220	7.1	280	4.1	210	7.0	114.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社(社名) 、除外 -社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	1,876,588株	2022年3月期	1,876,588株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	50,249株	2022年3月期	49,388株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	1,826,554株	2022年3月期1Q	1,817,840株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」の「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ワクチン接種が積極的に進められ、徐々に経済活動の回復の兆しが見えてきているものの、ロシアによるウクライナ侵攻を背景とした原油・原材料の高騰や急激な円安の進行など、先行き不透明な状況が続いております。また、コロナウイルス感染症は第6波の終息の傾向から経済活動の再開へシフトしてきておりますが、変異株の感染拡大による第7波への懸念から予断を許さない状況で推移しております。

食品業界におきましては、小麦・油脂の世界的な高騰、原油価格の上昇による包装材料や物流費など各種コストは円安とも重なってさらに上昇しており、価格改定を実施する企業が相次いでおります。そのため、消費者の節約意識は高く、さらには安全・安心への関心は依然として強く、高い品質・衛生管理体制の維持が求められております。

このような状況のなか、当社グループでも、主要原料である大豆の価格が高止まりしているうえ、原油価格、電力料、燃料費の高騰、円安の急速な進行もあり前年に続き凍豆腐の価格改定を2022年10月1日より行うことといたしました。また、HACCPを包括した食品安全の国際規格FSSC22000のバージョン5.1の追加要求事項をクリアしており、品質のさらなる向上を図っております。設備投資は合理化、省エネルギー、品質向上のため継続的かつ積極的に行っております。経営面では、SDGsに沿った取り組み推進を継続実施しており、プラスチック削減、紙容器の森林認証素材使用の推進、健康経営優良法人の継続認定などの取り組みを計画・実施しております。さらに、新型コロナウイルス感染症への対応については、状況に応じた感染予防対策を講じており、市場への円滑な商品提供に万全を期しております。

当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、営業活動が新型コロナウイルス感染症の影響から段階的に制限解除されるなか、売上高は、18億5千6百万円（前年同四半期比4.4%減）となりました。利益面では、引き続き製造コストの低減や経費の削減などを図ってまいりましたが、製造コストの増加はそれを上回る勢いであり、売上高の減少も相まって営業損失は3千4百万円（前年同四半期は3千6百万円の利益）、経常損失は2千万円（同4千7百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3千9百万円（同2千5百万円の利益）となりました。

部門別概況は、次のとおりであります。

[凍豆腐]

凍豆腐では、需要が微減傾向にある市場の拡大・活性化を図るべく他メーカーとコラボレーションしたInstagramキャンペーンを実施してまいりました。また、業界団体と協調し肉様の食感がある凍豆腐を元祖大豆ミートとしてPRなど行ってまいりました。しかし、売上高は、他社に先駆けた値上げの影響もあり前期を大きく下回る8億8百万円（前年同四半期比8.3%減）となりました。なお、前述の企業努力では吸収しきれない各種コストの大幅な上昇を受け収益面でも厳しい状況となっており、やむを得ず再度2022年10月1日より5～15%の出荷価格改定を発表いたしました。

[加工食品(即席みそ汁等)]

加工食品では、単品収益管理の徹底により収益力が弱いアイテムの改廃を進めているなか、本年3月発売のカップ入りタイプのオートミール4品の拡販に注力し加工食品全体を下支えしてまいりました。一方、即席カップみそ汁や同スープ関係は既存品の拡販に努めましたが好調に推移した前期の反動もあり、売上高は5億4千4百万円（同7.2%減）となりました。

[その他食料品]

その他食料品の売上高は5億2百万円（同6.1%増）となり、主力の医療用食材や大豆素材の商品が好調に推移いたしました。しかし、この分野でも製造コストが急速かつ大幅に上昇してきており、収益の圧迫を余儀なくされております。そのため医療用食材についてもやむを得ず2022年10月1日より価格改定を実施する予定となっております。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの資本の財源及び資金の流動性につきましては、以下のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度に比べ1千1百万円増加し95億9千万円（前連結会計年度比0.1%増）となりました。これは、季節的な変動要因が大きな売上高の減少などによる受取手形及び売掛金の減少2億1千7百万円があったものの、支出の抑制などにより現金及び預金の増加2億7千5百万円などがあったことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度に比べ5千8百万円増加し20億8千6百万円（同2.9%増）となりました。これは、返済に伴う長期借入金の減少7千9百万円や支払手形及び買掛金の減少4千1百万円があったものの、短期借入金の増加1億7千3百万円があったことが主な要因です。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ4千7百万円減少し75億4百万円（同0.6%減）となりました。これは、配当金支払などによる利益剰余金の減少1億3百万円があったことなどによるものです。

以上により自己資本比率は前連結会計年度に比べ0.7ポイント減少し77.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、現時点での業績が低調に推移しておりますが、今後の業績改善施策などにより通期の業績を達成する見込みであります。なお、昨今の経営環境の変化や新型コロナウイルス感染症による業績への影響などは依然不透明な状況が続いております。そのため、2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期の連結業績予想は変更しておりませんが今後、修正が必要となった場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,980,330	2,255,673
受取手形及び売掛金	1,431,530	1,213,919
棚卸資産	968,633	962,360
その他	83,820	70,407
貸倒引当金	△6,626	△5,493
流動資産合計	4,457,687	4,496,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,947,657	5,974,018
減価償却累計額	△4,757,404	△4,796,979
建物及び構築物(純額)	1,190,252	1,177,038
機械装置及び運搬具	7,004,696	7,050,506
減価償却累計額	△5,747,346	△5,824,969
機械装置及び運搬具(純額)	1,257,350	1,225,536
土地	1,703,573	1,703,573
リース資産	210,279	210,279
減価償却累計額	△161,075	△167,977
リース資産(純額)	49,204	42,301
建設仮勘定	20,567	37,512
その他	471,594	481,757
減価償却累計額	△390,799	△396,854
その他(純額)	80,795	84,903
有形固定資産合計	4,301,743	4,270,866
無形固定資産	162,816	155,613
投資その他の資産		
投資有価証券	610,122	624,566
繰延税金資産	4,249	1,582
その他	43,056	41,290
投資その他の資産合計	657,428	667,440
固定資産合計	5,121,988	5,093,919
資産合計	9,579,676	9,590,786

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	578,860	537,762
短期借入金	386,231	559,981
リース債務	24,556	21,658
未払金	236,271	291,794
未払法人税等	41,801	9,021
賞与引当金	52,041	30,006
設備関係支払手形	37,858	31,550
その他	154,800	166,542
流動負債合計	1,512,422	1,648,316
固定負債		
長期借入金	362,266	282,274
リース債務	29,649	25,042
長期未払金	39,457	39,595
繰延税金負債	28,759	35,146
資産除去債務	48,179	49,066
その他	7,050	7,050
固定負債合計	515,361	438,174
負債合計	2,027,783	2,086,491
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617,844	1,617,844
資本剰余金	1,632,423	1,632,423
利益剰余金	4,255,143	4,151,533
自己株式	△120,869	△120,869
株主資本合計	7,384,541	7,280,932
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6,386	12,486
為替換算調整勘定	118,430	151,931
その他の包括利益累計額合計	112,044	164,417
非支配株主持分	55,306	58,944
純資産合計	7,551,892	7,504,295
負債純資産合計	9,579,676	9,590,786

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	1,942,912	1,856,508
売上原価	1,380,136	1,340,488
売上総利益	562,776	516,019
販売費及び一般管理費	526,702	550,788
営業利益又は営業損失(△)	36,073	△34,769
営業外収益		
受取利息	867	985
受取配当金	8,137	8,955
受取賃貸料	1,207	1,149
受取技術料	3,007	3,067
為替差益	274	-
受取保険金	24	1,082
雑収入	1,643	1,585
営業外収益合計	15,162	16,824
営業外費用		
支払利息	1,311	867
為替差損	-	225
賃貸収入原価	1,683	1,336
雑損失	284	254
営業外費用合計	3,278	2,684
経常利益又は経常損失(△)	47,956	△20,628
特別損失		
固定資産除却損	1,930	815
特別損失合計	1,930	815
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	46,026	△21,444
法人税、住民税及び事業税	1,862	4,224
法人税等調整額	18,605	14,072
法人税等合計	20,468	18,297
四半期純利益又は四半期純損失(△)	25,557	△39,741
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	438	△83
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	25,119	△39,657

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	25,557	△39,741
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24,300	18,872
為替換算調整勘定	29,677	37,222
その他の包括利益合計	5,377	56,095
四半期包括利益	30,935	16,354
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	27,529	12,716
非支配株主に係る四半期包括利益	3,406	3,638

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、食料品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:千円)

	売上区分			合計
	凍豆腐	加工食品 (即席みそ汁等)	その他食料品	
一時点で移転される財	881,694	587,233	473,983	1,942,912
一定の期間にわたり移転される財	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	881,694	587,233	473,983	1,942,912
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	881,694	587,233	473,983	1,942,912

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	売上区分			合計
	凍豆腐	加工食品 (即席みそ汁等)	その他食料品	
一時点で移転される財	808,687	544,963	502,857	1,856,508
一定の期間にわたり移転される財	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	808,687	544,963	502,857	1,856,508
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	808,687	544,963	502,857	1,856,508

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。